

## コロナウイルスと生きていくために

筑紫野南中学校三年 大橋 花菜

今、世界で猛威をふるっている新型コロナウイルス。私たちは、三カ月間学校が休校になりました。私は、受験生のため、とても不安を感じていました。世間は緊急事態宣言を出され混乱しました。経済も大打撃を受けました。今もなお日本や世界で多くの感染者を出し、たくさんの死者を出しています。このコロナウイルスによって私たちの日常は大きく変わりました。

いくつかある問題の中で私が心を痛めているのは、コロナウイルスに感染した人たちが差別されていることです。私たちにとってコロナウイルスは、未知の感染症であり、目にも見えません。だから、いつ、どこで感染するかわかりません。感染しても、無症状の人もいれば、重症になる人もいて、後遺症が起こる人もいます。普通の生活を送り感染症の予防をしても、感染してしまうことはありません。それなのに、感染症への恐怖から、感染した人に対して差別が生まれてしまっています。

これまで、日本ではたくさんの差別を経験しています。女性差別や、障がいのある人への差別などです。私は、公民の授業でこういった差別に対しての法律について勉強しました。女性差別には、「男女雇用機会均等法」や「男女共同参画社会基本法」により女性差別は禁止されました。そして、障がいのある人に対する差別を禁止する「障害者差別解消法」が制定されています。法律は作られても差別はまだなくなっていない。いくら法律で禁止されても、人の考え方や見方はすぐに変わっていかないのです。

コロナウイルスによる差別は感染した人たちだけでなく、一生懸命ウイルスと戦ってくださっている医療従事者の方々、その家族、県外に行くトラックのドライバーの家族など、みんなのために働いてくれているのにも関わらず、差別されることがあります。確かにコロナウイルスに感染している環境にいる人は、ウイルスを持っていきそうだという考えも分かります。自分は感染したくないという思いから、感染者と関わりのある人との接触を避けようとする気持ちも出てくる。都市部に行かないといけない運送業の家族は、都市部は、感染者が多くウイルスもたくさんありそうだから、その家族もウイルスに感

染しているのではないかという考えをされています。しかし、私たちが少しでも今までの生活に近い生活を送れるように頑張ってくれている人たちに対して、感謝の気持ちをもつどころかウイルスへの恐怖心から差別をしてしまうのは、よくないと思います。だから、私たちは、医療従事者の人たちや私たちの生活を支えてくれている人たちに対して、感謝の気持ちを忘れずに、また自分も感染しないようにするためにマスクをつける、手洗い・消毒をする、三密を避けるなど、今必要とされていることをしっかりと行うことが必要だと思います。そうすることで自分や家族、友達など大切な人を守ることにつながります。

私は、このような差別があっていることを一人でも多くの人に伝えて、決してこのような差別があってはいけないという考えをみんなと共有していきたいです。また、感染者を減らすために、しっかり予防して、予防が徹底できていない人には徹底するように呼びかけをしていきたいと思います。